

—概要—

ここ数年で進行期肺癌に対する化学療法は急速に進歩し、従来からの細胞障害性抗がん剤に加えて、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤などが一般臨床でも多く用いられるようになってきました。肺癌の重要なドライバー遺伝子(=がんの発生、増殖の原因とされる遺伝子)であるEGFR,ALK,ROS1、BRAFに加えMET、RETの解析も進み、2022年2月現在で国内では7種類の遺伝子変異に対する分子標的薬が保険承認されました。また免疫チェックポイント阻害剤では腫瘍組織のPD-L1発現をみることで、個々の患者さんに効果の高い治療薬を投与することが期待されています。

上記を単剤で、もしくは組み合わせることでより高い効果を狙う臨床試験も多く行われており、さらに標準治療はさまざまな形で変わってゆくことが期待されています。

しかし、期待される効果以外にも予想困難な副作用や、病状への大きな負担が問題となる症例もあります。画像検査、病理検査、血液などの検査結果を理解し、病状に合わせた治療選択がさらに重要となってきています。

当科では適切な治療を選択できるよう、通常の診療に加えセカンドオピニオンをお受けいただくことが可能です。火曜日午後と木曜日午前には森山、第2木曜日午前には関西医大枚方病院、呼吸器腫瘍科教授の倉田医師が外来を担当しております。

肺癌と診断を受けた方、治療中の方でセカンドオピニオン希望の方は、主治医の先生とご相談の上、当院へご相談ください。診察予約と受診前に画像と情報提供書が必要となります。

また、がん治療中の症状緩和も緩和外来(月曜日、午後不定期)にておこなっております。

当科では大阪府の成人病検診に参加しており、泉佐野市をはじめ泉州地区4地区の住民健診の胸部2次検診を施行。呼吸器疾患の早期発見・早期予防に取り組んでいます。

—研究業績数—

	2011年度 (平成23年度)	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度 令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	計
英文原著、 総説、著書	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
和文原著、 総説、著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際学会報告	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
国内学会報告	3	2	0	0	0	1	0	0	1	0	7
研究会・講演会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学術講演・講義	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
院内研究活動	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
座長	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	2	1	0	0	1	0	0	5	0	14

## 研究業績：診療局 肺腫瘍内科

### 平成23年度

#### (1) 原著、総説、著書 (2011.4～2012.3)

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	Phase II Study of Gefitinib as a First-line Therapy in Elderly patients with Pulmonary Adenocarcinoma:West Japan Thoracic Oncology Group Study 0402	Masashi Kobayashi, Kaoru Matui, Nobuyuki Katakami, Koji Takeda, Adusa Moriyama, Yasuo Iwamoto, Minoru Takada, Hiroshige Yoshioka, Naoko Sueoka-Aragane and Kazuhiko Nakagawa	Japanese Journal of Clinical Oncology	vol.41 No.8, 29June2011	948-952	2011

#### (2) 学会研究会報告 (2011.4～2012.3)

番号整理	演題	発表者	学会・研究会名	年月日
1	非小細胞肺癌患者に対するエルロチニブ投与前の少量経口ステロイド+抗生剤内服併用による皮疹への影響について	森山あづさ 倉田宝保 桂 浩	第9回日本臨床腫瘍学会学術集会	2011.7.21
2	左下葉無気肺を伴い呼吸不全を呈した横隔膜弛緩症に対して胸腔鏡下横隔膜縫縮術を施行し有効であった1例	和泉宏幸 尹 亨彦 森山あづさ 桂 浩	第34回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2011.6.17
3	未治療進展型小細胞肺癌に対する塩酸イリノテカンと塩酸アムルビシン併用化学療法の臨床第I/II相試験(WJTOG0302)	金田裕靖 森山あづさ 中川和彦 他	第52回肺癌学会総会	2011.11.3
4	A Phase I / II Study of Amrubicin and Irinotecan in patients with Advanced Small Cell Lung Cancer	T Kimura, A Moriyama, K nakagawa et al.	European Society for Medical Oncology(ESMO)2011	2011.9.23

### 平成24年度

#### (1) 学会研究会報告

番号整理	演題	発表者	学会・研究会名	年月日
1	左上葉スリーブ切除術を行った肺根表皮癌の1例	別所哲哉 桂 浩 森山あづさ 今北正美	第53回日本肺癌学会総会	2012.11.8
2	過誤腫が疑われ核出術とした肺内発生のsolitary fibrous tumor の1例	桂 浩 別所哲哉 森山あづさ 今北正美	第53回日本肺癌学会総会	2012.11.8

### 平成25年度

#### (1) 原著、総説、著書

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	A Phase I / II Trial of Irinotecan Plus Amrubicin Supported with G-CSF for Extended Small-cell lung Cancer	T. Harada, A. Hamada, A. Moriyama, K. Nakagawa, Y. Nakanishi, et al.	Japanese Journal of Clinical Oncology	Vol.44(2)	127-133	2014.2

### 平成28年度

#### (1) 国内学会報告

番号整理	演題	発表者	学会名	発表形式	年月日
1	術後急速に進行した骨格筋転移を伴った限局性悪性胸膜中皮腫の1例	桂 浩 森山あづさ 今北正美	第57回日本肺がん学会学術集会	ポスター	2016.12.19



## 平成31年度・令和元年度

### (1) 国内学会報告

番号 整理	演 題	発 表 者	学 会 名	発表形式	年 月 日
1	GGN病変に対し10年間の経過観察後切除し浸潤性粘液腺癌と診断された1例	山中秀樹,大森謙一,森山あづさ,今北正美,他	第60回日本肺癌学会学術集会	ポスター	2019.12.6

### (2) 学術講演・講義

番号 整理	演 題	発 表 者	学術講演会名	年 月 日
1	肺がん化学療法の最近の動向	森山あづさ	泉佐野薬剤師会	2019.5.9

### (3) 院内研究活動

番号 整理	演 題	発 表 者	研究活動名称	年 月 日
1	緩和ケア研修会	森山あづさ,米本紀子,杉野幸恵,他	PEACE研修会	2019.5.26
2	気管支鏡検査について	森山あづさ	病棟勉強会	2019.7.8
3	肺癌の化学療法	森山あづさ	病棟勉強会	2019.10.4